

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「生徒たちが『入学してよかった』と思える学校、保護者に『入学させてよかった』と認めていただける学校、
卒業生がすばらしい『母校』と思える学校、地域の方に『一緒にがんばろう』と認めていただける学校」をめざす。

- 1 生徒の自己実現に向けた教育活動により、夢と志を持った生徒を育成する。（目標あるキャリア教育）
- 2 人権尊重の精神に基づいて、モラルやマナー面での社会的な人間力を育てる。（人権教育をふまえた社会的実力の育成）
- 3 地域や保護者等との信頼に基づいた連携関係を構築して教育活動を展開する。（社会に開かれた学校づくり）

2 中期的目標

1 確かな学力の定着

- (1) 工夫ある計画的な展開やICTを活用した授業の拡充等により魅力ある授業づくりを推進し、学びの意欲を高め基礎学力の定着を図る。
- (2) 授業研究委員会を核に「SK勉強会」などの授業研修を実施することで校内の研究授業等を充実させ、経験の多少によらず授業力の向上を図る。
*生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い。」(R2:69.5%, R3:87.7%, R4:82.8%) に関して令和7年度には85%をめざす。
*生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい。」(R2:63.6%, R3:81.1%, R4:75.5%) に関して令和7年度には80%をめざす。

2 多様な進路の実現

- (1) 多様な進路を実現するための進路支援システムを確立し、早期に進路目標を意識させる指導を行う。
*生徒が卒業後に自己実現に向けての準備をするケースを除いて、進路未決定率 (R2:3.4%, R3:4.4%, R4:5.5%) に関して令和7年度には4%をめざす。
*大学進学を希望する生徒に力をつけて、令和7年度には一般的な難関私立大学・国公立大学にチャレンジする生徒5名以上を育てることをめざす。

3 社会に貢献する人材の育成

- (1) 基本的生活習慣の確立と規範意識向上に向けた取組みを推進するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。
ア 社会的なモラルやマナーを遵守することの大切さを理解させて、社会的な実力を育成する。
イ スクールカウンセラー (SC) やスクールソーシャルワーカー (SSW) を活用した教育相談体制を確立させ、個々の生徒への支援体制を充実させる。
*生徒向け学校教育自己診断における生活規律等基本的習慣の指導確立項目 (R2:72.3%, R3:86.6%, R4:83.2%) に関して令和7年度には85%をめざす。
*生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目における満足度 (R2:65.0%, R3:78.3%, R4:76.9%) に関して令和7年度には80%をめざす。
- (2) 特別活動や部活動を充実させ生徒の参加を促進することで、生徒の自己肯定感を醸成するとともに、学校への帰属意識を高める。
ア 学校行事や部活動において、生徒の自主性を高めるとともに、集団の中で他と調和しながら行動する能力を育成する。
イ 「堺上高杯」等において地域や小中学校とのさらなる連携を図ることを通して、生徒に自尊心とボランティア精神を育む。
*生徒向け学校教育自己診断における行事に対する満足度 (R2:70.9%, R3:77.7%, R4:79.5%) に関して令和7年度には85%をめざす。
*生徒の入部率を (R2:44.7%, R3:46.5%, R4:45.2%) を毎年1ポイント以上引き上げ、令和7年度には48%をめざす。
- (3) 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進をめざし、障がい者理解につながる取組みを行い、「認め合い尊重し協働していく人」を育む。

4 校内運営体制の改善と人材の育成

- (1) 組織業務の見直しを行い、精選と簡素化、業務量の検討を行なうことで体制の強化と「働き方改革」に即した労働時間の適正化を図る。
- (2) 本校独自の「SKミーティング」「SK勉強会」等を開催し、教員力育成事業を推進することにより育成システムを構築する。

5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進

- (1) 地域の中学校等への広報の充実を努め、更なる連携を推進する。
*知名度を高め魅力を発信すべく「堺上高杯」への参加校及び中学生数 (R2:中止, R3:31校600名, R4:40校750名) に関して、新規の参加校開拓などをしながら令和7年度まで同水準の数値を維持することをめざす。
- (2) 保護者が積極的にPTA活動に参加できるよう、PTA活動内容の精査を行いさらなる充実を図ることにより、学校の教育活動への理解を深める。
*PTA主催の研修への参加率 (R2:66.7%, R3:67.5%, R4:55.7%) に関して、令和7年度には70%をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習面について】 ・「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定回答は 86.0% (3.2%↑)、 「授業は、わかりやすく楽しい」の肯定回答は 76.3% (0.8%↑) と微増している。生徒向け授業アンケートにおいてはほとんどの項目で肯定評価が前年度よりさらに向上した。学習内容に達成感を持たせることができるような授業づくりに全教員で取り組んできた成果が前年度に引き続き現れている。今後も、生徒端末をはじめとする ICT を活用し、一斉学習と個別及び協働学習を組み合わせ、わかりやすく質の高い授業づくりを組織的に推進していく。</p> <p>【生徒指導について】 ・生徒の生徒指導に関する認識「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力をいれている」の肯定回答は 84.1(0.9%↑)「学校生活についての先生の指導は納得できる」は 75.1(3.9%↑)となっている一方で、保護者対象の項目「学校の生徒指導の方針に共感できる」の肯定回答は 67.6% (0.9%↓)と生徒の回答に比べてやや低く、昨年度より低下している。生徒指導提要の改訂を導入し、生徒が納得いく丁寧な指導を保護者に理解を得ながら、進めていきたい。</p> <p>【進路指導について】 ・生徒対象項目「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定回答は 86.0%(2.5%↓)、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定回答は 85.6%(1.3%↓)、と高水準である。情報提供が、紙面からメールでのお知らせになり便利になった一方で保護者対象項目の「学校は進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」の項目は、56.8%(2.4%↓)となっており、今後も丁寧な情報提供を心掛けていく。</p>	<p>第1回学校運営協議会 (R5.6.26)</p> <p>○小学校・中学校でも「不登校」「校則(身だしなみ等)の指導」の対応について課題を共有し今後も連携をとっていきたい。児童生徒の多様性を認めていく方向性で指導している。</p> <p>○入って良かった。卒業して良かった。と考えることができる生徒が多いのは、堺上高校に入学して「いい先生に巡り合った」からだと思う。授業見学していても学年が上がるほど落ち着いている様子や人懐っこい生徒の様子も見ることができた。</p> <p>○進路を自分で考えられることが大切で、探究の授業等で、学ぶ意義や働く意義、キャリアデザイン等を学び、様々な体験をすることでイメージが固まっていく。そのために地域との連携は非常に大切であり、社会資源(近隣の企業や自治会等)との連携を進めるべきである。</p> <p>○授業がわかりやすいこと、楽しいことが大切で、登校するモチベーションになる。また学年職員室が各階にあり教員と生徒の距離の近さは生徒にとってとても良い環境である。</p> <p>○進路指導で、出口を固め、わかりやすい授業や地域との連携を目標にしていることはとても大切でありこれからも今年度の学校経営方針で進んでいくことを期待している。</p> <p>第2回学校運営協議会 (R5.11.21)</p> <p>○進路状況報告で「その他」に分類される進路について、多様な進路実現をかなえている生徒を積極的に紹介していくことで、学校の良さが発信できる。</p> <p>○現代版「読み書きそろばん」と言われている、数理・データサイエンス AI リテラシーについて積極的に導入していくことを期待している。</p> <p>○これからも職員研修など積極的に取り組み、ICT教育を推進していく力を教職員に期待する。</p>

<p>【生徒会活動について】</p> <p>・学校行事(文化祭肯定回答 79.8%、体育大会肯定回答 79.4%、修学旅行肯定回答 82.1%)は、高い水準にあるが、新入生の入部率は 38.7%と前年度 54.7%より激減した。生徒対象項目の部活動に積極的に取り組んでいる」の項目も 48.6%(7.5%↓)で、教職員の働き方改革や部活動活性化を旨したい。</p>	<p>第3回学校運営協議会(R6.2.19)</p> <p>○卒業生の多様な進路にも対応した指導ができる学校であることをセールスポイントにすべき。</p> <p>○堺市とその周辺には伝統のある職業や多様な企業が存在し、地域と連携した学校の特徴を出しやすい。探究学習の充実とともに進めてほしい。</p> <p>○様々な体験を通じた新たな発見や、学習目標設定を細分化して達成させるなど工夫しこれからも自己肯定感を高める生徒支援を期待する。</p> <p>○地域との連携とDXを視野に入れたカリキュラムを検討すべき。</p> <p>○これからは文理を融合した学びや、データを元に考え発信する力の育成が必要。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着	<p>(1)ICTを活用した工夫ある授業作りの推進</p> <p>(2)組織的な授業改善の推進</p>	<p>(1)・学習内容に対して達成感を持たせることができるように、1人1台端末をはじめとするICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした学習活動を行う。そのことを通して、工夫ある教科指導による授業づくりに取り組む。</p> <p>(2)・新学習指導要領を踏まえて「観点別学習状況評価」を進めるとともに、授業研究委員会を核として授業実践に向けた教員研修の実施や、授業見学及び研究協議を充実させ、生徒の学習活動に関する課題を教員が共有することにより、同僚性を活かした授業改善を図る。</p>	<p>(1)・生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」を83%以上にする。[82.8%]</p> <p>(2)・教職員向け学校教育自己診断「指導内容について、他の教科の担当者と話し合う機会がある」について同水準を維持する。[92.6%]</p>	<p>(1)令和5年度 86.0% 【○】</p> <p>(2)令和5年度 85.7% 【△】 ※前年度値が高水準であり、今後も授業改善に対して高い意識が必要である。</p>
2 多様な進路の実現	<p>(1)生徒の実態に即した、早期に目標を意識させることによる多様な進路指導の充実</p> <p>(2)図書館を活用した教育活動を推進し幅広い教養を育成</p>	<p>(1)・外部講師等による進路講演会実施や就職支援コーディネータの活用、内定者指導、進学講習など、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路指導を行う。</p> <p>・4年制大学、医療看護系、就職関係など個々の進路に応じた個別講習を実施する。</p> <p>・英検、パソコン検定等の受検を促進する。</p> <p>(2)・図書館を整備し、図書館を活用した教育活動を行う。</p>	<p>(1)・進路未決定率5.5%以下をめざす。[5.5%]</p> <p>・一般入試まで頑張って第1志望にチャレンジする生徒数の増加をめざす。[12名]</p> <p>・各種検定受検者数の前年度増をめざす。[英検13名] [パソコン検定42名]</p> <p>(2)・教職員向け学校教育自己診断「この学校では、図書館が生徒に活用されている」について70%以上を維持する。[70.4%]</p>	<p>(1)・未決定11名/在籍201名5.4%【○】 ・4名【△】 ※A0入試での進学が増えたため</p> <p>・英検1名・パソコン検定36名【△】 ※生徒への検定紹介を工夫する。</p> <p>(2)・令和5年度 57.1%【△】 ※コロナによる行動制限が緩和され、生徒がコミュニケーションを取る行動が、多岐に選択できるようになった。生徒が図書活動に興味関心を持つ取組みをさらに進める。</p>
3 社会に貢献する人材の育成	<p>(1)ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上</p> <p>イ 個々への支援体制の強化</p>	<p>(1)ア・遅刻回数による段階指導や遅刻防止週間、入室許可書等これまでの指導システムを継続しつつ、個々のケースの原因の解決にあたることにより、遅刻数の減少に取り組む。</p> <p>・進路実現などとも関連させて、服装等身だしなみの指導を強化する。</p> <p>・大阪府の自転車条例をふまえ、自転車事故防止やマナー向上のための講習会を警察等と連携して実施するとともに、駐輪指導をはじめとする自転車関係の指導を強化する。</p> <p>イ・SCとSSWを活用した教育相談体制を充実させ、個々のケースに迅速に対応できる能動的な組織の確立に努め、外部機関との適切な連携を図る。</p>	<p>(1)ア・遅刻統計の総数で前年度(5729回)減をめざす。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断での生活規律等基本的習慣の指導確立の項目について同水準を維持する。[83.2%]</p> <p>・自転車事故報告件数について、0件をめざす。[3件]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目における満足度について77%以上をめざす。[76.9%]</p>	<p>(1)ア・令和5年度 5947回【△】 ※遅刻時間は、短いものが多く朝の生活習慣の改善等への指導が課題である。</p> <p>・令和5年度 84.1%【○】</p> <p>・令和5年度 11件【△】</p> <p>イ・令和5年度 82.3%【○】</p>

<p>3 社会に貢献する人材の育成</p>	<p>(2)ア 特別活動や部活動の活性化</p> <p>イ 地域や小中学校などとの連携を通して自尊心とボランティア精神を育成</p> <p>(3) 障がい者理解につながる取り組みを行い、「認め合い尊重し協働していく人」を育む。</p>	<p>(2)ア・体育大会や文化祭等の学校行事のあり方に工夫を加えて、生徒の学校生活の充実を図る。 ・入学後の体験入部等の実施方法を充実させて、1年次の加入率を上げる。</p> <p>イ・「堺上高杯」を組織的に実施し、地域の学校との連携を深めることを通してマネジメント力を高めるとともに、自己肯定感を醸成する。 ・堺市西区地域と連携し、生徒会や部活動ごとのボランティア活動を行う。</p> <p>(3)・社会資源(障がい者スポーツセンターや作業所等)と連携し、体育の授業や生徒会活動・委員会活動等を通して、障がい者理解やSDGs【ターゲット7】につながる取り組みを行う。</p> <p>・高等学校支援教育力充実事業を活用し、教員力の向上を図る取り組みを行う。</p>	<p>(2)ア・生徒向け学校教育自己診断の行事満足度を80%以上にする。 [79.5%]</p> <p>・1年次の加入率50%以上をめざす。 [54.7%]</p> <p>イ・「堺上高杯」を計画的かつ組織的に実施し、昨年度と同水準の中学生の参加をめざす。[40校750名の参加] ・清掃活動等、各クラブにつき1つのボランティア活動を行う。</p> <p>(3)・ライフスポーツ等の授業で、車いすバスケットボールやボッチャを体験したり、生徒会等の取り組みとして、作業所と連携し、空き缶のリサイクルについて学ぶ。 [新規]</p> <p>・支援教育サポート校等と連携した研修の実施と支援教育コーディネータを中心にした教員相談体制を確立し、相談件数を100件以上にする。[50]</p>	<p>(2)ア・令和5年度 80.5% 【○】 ・令和5年度 38.7% 【△】 ※学校外活動生徒の増加傾向が見られた。(空手・ダンス・キックボクシング・アイスホッケー・サッカー等)</p> <p>イ・令和5年度 750 【○】 ・ボランティア活動実績 【△】 ※男女バスケ、サッカー、男女ソフトテニス</p> <p>(3)・車いすバスケット体験 (11/29) ・ボッチャ大会(3年)(11/29) ・障がい者施設交流(11/10) ・老人介護施設交流(11/25) 【○】</p> <p>・研修およびケース会議等 3回 R6.2末現在 相談件数延べ150件 【○】</p>
<p>4 校内運営体制の改善と人材の育成</p>	<p>(1) ICTの活用による業務の効率化と労働時間の適正化</p> <p>(2) 教員の教育力育成</p>	<p>(1)・グループウェア等を活用し、業務の効率化を図るとともに、情報の共有を推進する。 ・定時に全員退庁する「全校一斉定時退庁日」を週1回設定し、一人ひとりが勤務時間管理や健康管理に取り組む。</p> <p>(2)・職員研修や独自のミーティングを実施して教科指導をはじめ分掌業務や担任業務等に関する教員の教育力の向上を図る。</p> <p>・教職員研修の実施に際し、外部講師を積極的に招聘するなどして、生徒の自他尊重の精神向上に結びつく等、学校の実情に即した内容となるよう創意工夫を行う。</p>	<p>(1)・会議資料のペーパーレス化をはじめ、フォーム作成ツールによる欠席連絡、生徒保護者への文書配布のデジタル化、アンケートの電子化・学校掲示板の活用推進等を行い業務の効率化を図る。 ・1か月の時間外在校等時間が80時間を越える教職員の延べ人数を32人以下にする。 [32人]</p> <p>(2)・定例の職員研修以外に独自の「SKミーティング」を3回以上実施。教員向け学校教育自己診断「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」の項目について60%以上をめざす。[3回、55.6%]</p> <p>・教員向け学校教育自己診断での校内研修の教育実践有効性を問う項目で同水準の維持をめざす。[92.6%]</p>	<p>(1)・会議資料ペーパーレス化 文書配付のデジタル化 アンケートの電子化 学校掲示板活用 【○】</p> <p>・R6.2末現在 29人 【○】</p> <p>(2)・SKミーティング3回実施 6月・7月・12月 ・令和5年度 53.6% 【△】 ※ 定時退庁等、働き方を考える取り組みの中で、研修や研究の機会がとりにくくなったが、効率の良い研修を進める。</p> <p>・令和5年度 89.3% 【△】 ※ 前年度値が高水準であり、今後も校内研修に対して創意工夫が必要である。</p>
<p>5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進</p>	<p>(1) 広報活動の充実と中学校との連携推進</p> <p>(2) 保護者への積極的な情報提供と学校理解に結びつくPTA活動の充実</p>	<p>(1)・Webページやリーフレット等の様々な媒体による広報活動を展開するとともに、対象者を明確にしたうえで内容を精選するなど、効果的な情報発信を行う。 ・校外、校内の学校説明会に全教職員が参加し、広報活動をより充実させる。 ・出身中学校に対しての広報に努めるとともに、3月に新入生の状況把握を行い個別の支援の一助とする。</p> <p>(2)・メール配信等により保護者へ迅速かつ適切な情報提供を行う。 ・学校行事やPTA活動に積極的に関わっていただくことを通して、保護者の本校への理解を深めていただく。</p>	<p>(1)・Webページの内容を精選し、更新を週1回以上行う。</p> <p>・校内学校説明会の参加者数について前年度増をめざす。[344名]</p> <p>・出身中学校と連絡をとり、資料の配付をするとともに生徒の状況把握を行う。 [11月～2月50校、3月28校]</p> <p>(2)・保護者向け学校教育自己診断で進路に関する情報提供を問う項目について前年度増をめざす。[59.2%] ・PTA主催の研修参加率について、定員の60%以上をめざす。[55.7%]</p>	<p>(1)・更新回数55以上 年間平均週1回実施 【○】</p> <p>・1回235・2回128・3回70 433名 【○】</p> <p>・11月～3月 訪問中学校数 78校 【○】</p> <p>(2)・令和5年度 56.8% 【△】 ・62.8% (進路研修・文化教養講座等) 【○】</p>